

令和7年度横浜市民スポーツ意識調査 結果報告

横浜市では、市民の皆様のスポーツの実施状況等を把握するとともに、「横浜市スポーツ推進計画」の目標達成度合いを計るため、市民を対象としたスポーツ意識調査を毎年実施しています。令和7年度の調査結果を取りまとめましたので、公表いたします。

調査結果の詳細（クロス集計結果等）については、令和7年度横浜市民スポーツ意識調査報告書に掲載していますので、にぎわいスポーツ文化局ホームページを御覧ください。

(URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kankobunka/sports/shinko/shinko/ishiki.html>)

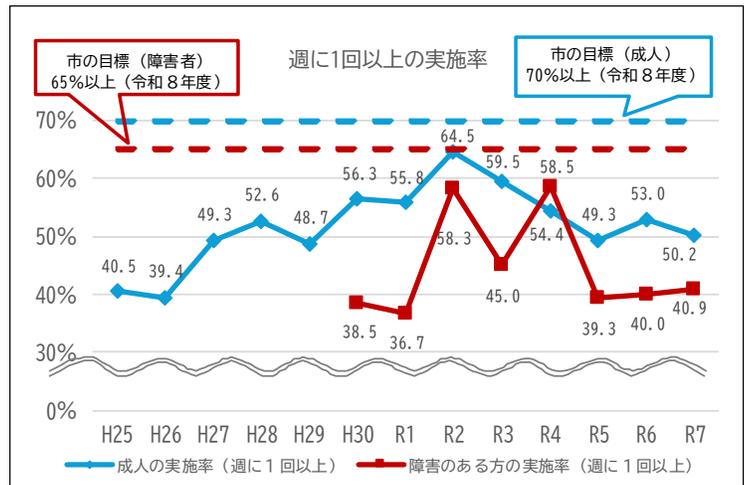


1 結果概要（別紙「令和7年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版」を参照）

(1) スポーツ実施率の変化

成人の週に1回以上のスポーツ実施率は、平成26年度の39.4%から令和2年度にかけて増加傾向にありました。令和3年度から令和5年度にかけては減少しましたが、令和6年度には増加に転じ、令和7年度には再び減少に転じました。

障害のある方については、平成30年度から調査を始めましたが、令和5年度までは数値の上下が大きく、何らかの傾向はみられませんでした。令和5年度以降4割程度で推移しています。



(2) 第3期横浜市スポーツ推進計画の目標値（抜粋）及び前年度との比較

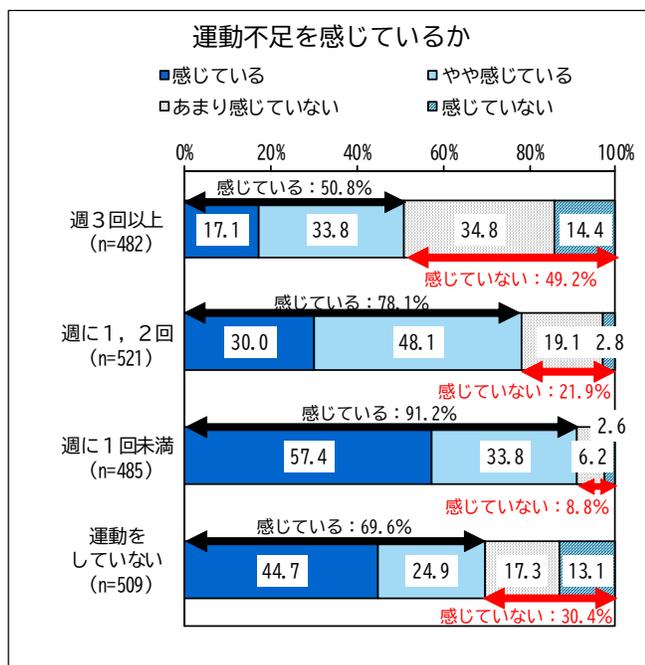
項目	目標 (R8)	R7	R6
成人の週1回以上のスポーツ実施率	70%以上	50.2%	53.0%
成人の1年に一度以上のスポーツ実施率	100%に近づける	74.5%	79.7%
スポーツが好きな人の割合	75%以上	62.8%	66.3%
働く世代・子育て世代の週1回以上のスポーツ実施率	60%以上	42.6%	48.4%
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	65%以上	40.9%	40.0%
障害者の1年に一度以上のスポーツ実施率	80%以上	57.7%	61.5%
スポーツボランティア参加率	10%以上	8.2%	8.3%
市内でのスポーツイベント直接観戦率	30%以上	26.6%	35.9%
横浜市はスポーツが盛んであると思う市民の割合	70%以上	54.0%	58.0%

裏面あり



(3) 運動不足に関する意識

令和7年度の調査では、運動・スポーツの実施が週1回未満の人は運動不足と感じていない割合（「あまり感じていない」と「感じていない」を合わせた割合）が8.8%でした。一方で、運動をしていない人の運動不足と感じていない割合は30.4%でした。



2 調査概要

- (1) 対象者
 - ア 横浜市に居住する満18歳以上の調査機関登録者男女1,997人
 - イ 次のいずれかを満たす調査機関登録者合わせて208人
 - (ア) 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方本人
 - (イ) 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方と同居している家族（代理回答）
- (2) 抽出方法
 - ア 住民基本台帳登録者（令和7年3月末現在）の性別・年代・居住区の構成比率を基に市全体の縮図となるようサンプル数を割付し、調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
 - イ 調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
- (3) 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- (4) 調査期間 令和7年9月16日（火）～10月7日（火）
- (5) 回収状況
 - ア 有効回答数:2,217件（ウェイトバック集計後1,997件）
 - イ 有効回答数:208

※各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数（1,997）でウェイトバック集計を行った。

※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が100%にならない場合がある。

※回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数第2位を四捨五入している。複数項目を合計した数値についてはローデータの合計値を四捨五入しており、個別の数値の合計値とは一致しない場合がある。

お問合せ先		
にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課長	吉田 登	Tel 045-671-3237



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



令和7年度 横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版

I 調査概要

- 1 目的 国の「スポーツ基本計画」を参考に策定した「横浜市スポーツ推進計画」における「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進に向けて、運動・スポーツの実施率等、横浜市における現状を把握するため、市民を対象としたスポーツ意識調査を実施した。また、その結果を活かし、本市スポーツ施策における各種事業の現状と課題について考察し、課題解決に向けた新たな政策立案等につなげていく。
- 2 対象者 (1) 横浜市民スポーツ意識調査①
横浜市に居住する満18歳以上の調査機関登録者男女1,997人
(2) 横浜市民スポーツ意識調査②（障害のある方を対象とした調査）
次のいずれかを満たす調査機関登録者合わせて208人
ア 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方本人
イ 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方と同居している家族（代理回答）
※障害のある方が複数人いる場合は、最も年齢の高い方を対象とする
- 3 抽出方法 (1) 住民基本台帳登録者（令和7年3月末現在）の性別・年代・居住区の構成比率を基に市全体の縮図となるようサンプル数を割付し、調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
(2) 調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
- 4 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- 5 調査期間 令和7年9月16日（火）～10月7日（火）
- 6 回収状況 (1) 有効回答数：2,217件（ウェイトバック集計後1,997件） (2) 有効回答数：208件
※(1)は、各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数（1,997）でウェイトバック集計を行った。
※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が100%にならないことがある。
※回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数第2位を四捨五入している。複数項目を合計した数値についてはローデータの合計値を四捨五入しており、個別の数値の合計値とは一致しない場合がある。

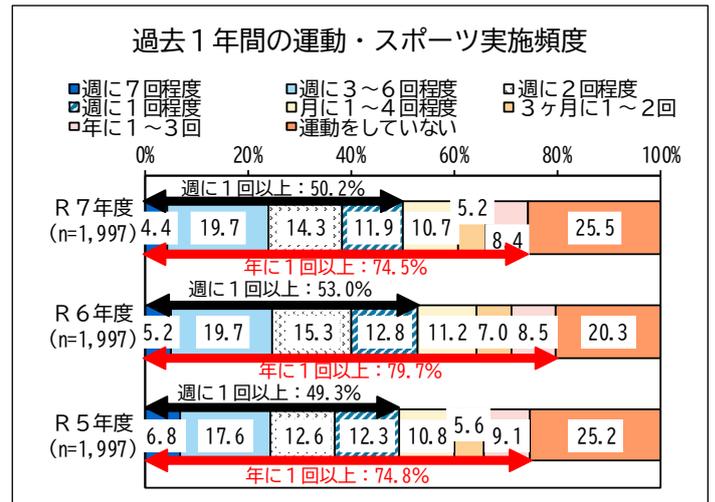
【第3期横浜市スポーツ推進計画における指標（抜粋）】

活動内容	目標値 (令和8年度)	令和7年度 (今回)	令和6年度 (前回)
成人の週に1回以上のスポーツ実施率	70%以上	50.2%	53.0%
成人の1年に一度以上のスポーツ実施率	100%に近づける	74.5%	79.7%
スポーツが好きな人の割合	75%以上	62.8%	66.3%
働く世代・子育て世代の週1回以上のスポーツ実施率	60%以上	42.6%	48.4%
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	65%以上	40.9%	40.0%
障害者の1年に一度以上のスポーツ実施率	80%以上	57.7%	61.5%
スポーツボランティア参加率	10%以上	8.2%	8.3%
市内でのスポーツイベント直接観戦率	30%以上	26.6%	35.9%
横浜市はスポーツが盛んであると思う市民の割合	70%以上	54.0%	58.0%

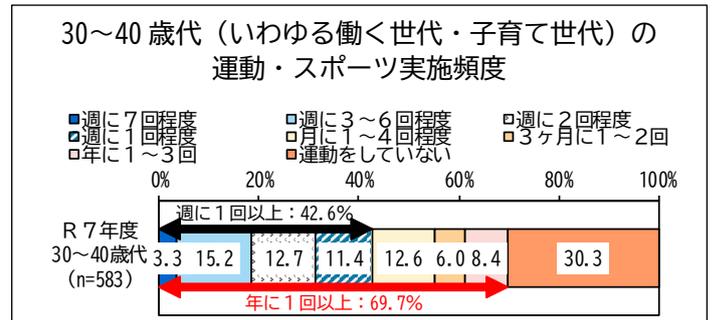
II 結果概要

「する」スポーツ

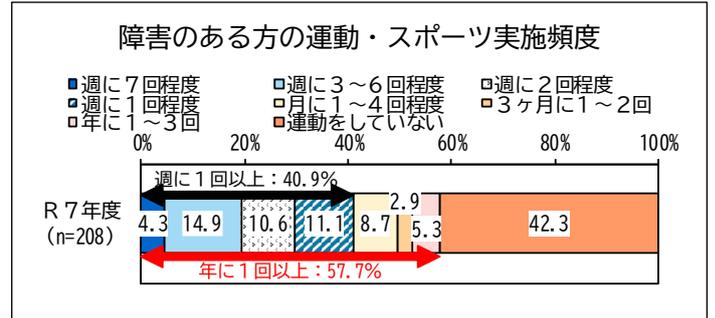
- 「週に1回以上」の運動・スポーツ実施率は50.2%
令和6年度の53.0%から2.8ポイント減少、横浜市
スポーツ推進計画の目標（以下、市の目標）（70%
以上）には19.8ポイント及ばなかった。
- 「1年に一度以上」の運動・スポーツ実施率は74.5%
令和6年度の79.7%から5.2ポイント減少、市の目標
（100%に近づける）には25.5ポイント及ばなかった。



- 30~40代（いわゆる働く世代・子育て世代）の
「週に1回以上」のスポーツ実施率は42.6%
令和6年度の48.4%から5.8ポイント減少、市の目標
（60%以上）には17.4ポイント及ばなかった。

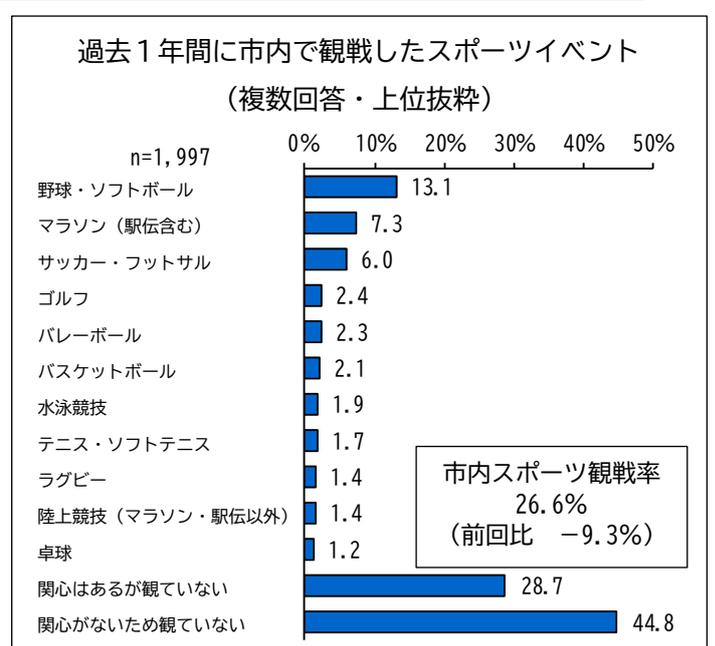


- 障害のある方の「週に1回以上」のスポーツ実施率は40.9%
令和6年度の40.0%から0.9ポイント増、市の目標
（65%以上）には24.1ポイント及ばなかった。
- 障害のある方の「1年に一度以上」の運動・スポーツ
実施率は57.7%
令和6年度の61.5%から3.8ポイント減少、市の目標
（80%以上）には22.3ポイント及ばなかった。



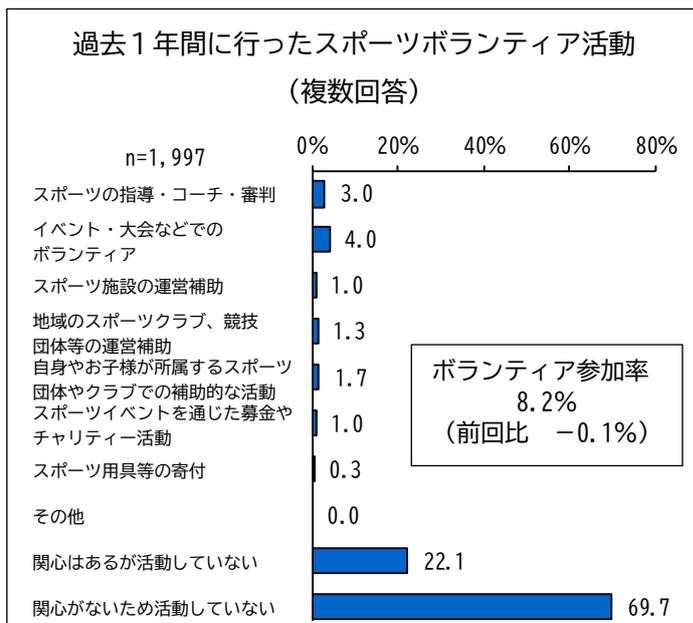
「みる」スポーツ

- 過去1年間の市内での観戦率は26.6%
令和6年度の35.9%から9.3ポイント減少、
市の目標（30%以上）には3.4ポイント及ばなかった。
なお、種目については、「野球・ソフトボール」が
13.1%で1位となったが、令和6年度の19.9%から
減少した。次いで「マラソン（駅伝を含む）」が
7.3%、サッカー・フットサルが6.0%という結果だった。



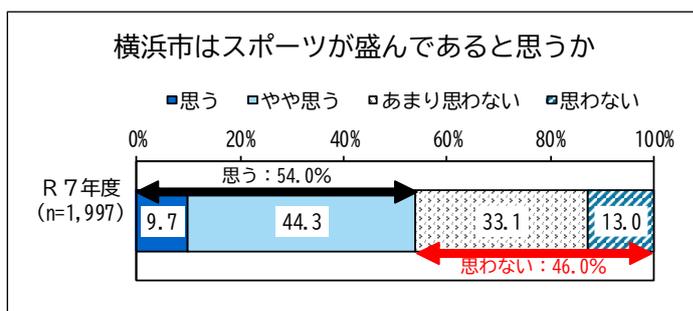
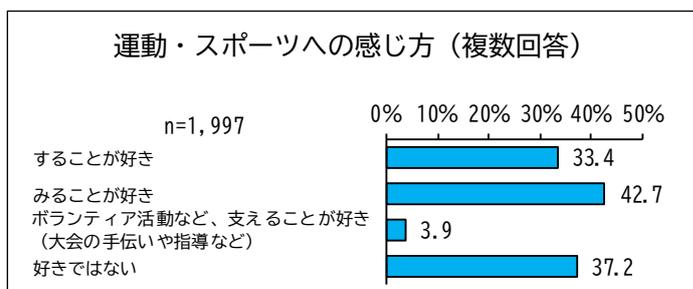
「ささえる」スポーツ

- 過去1年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は8.2%
令和6年度の8.3%から0.1ポイント減少、市の目標(10%以上)には1.8ポイント及ばなかった。



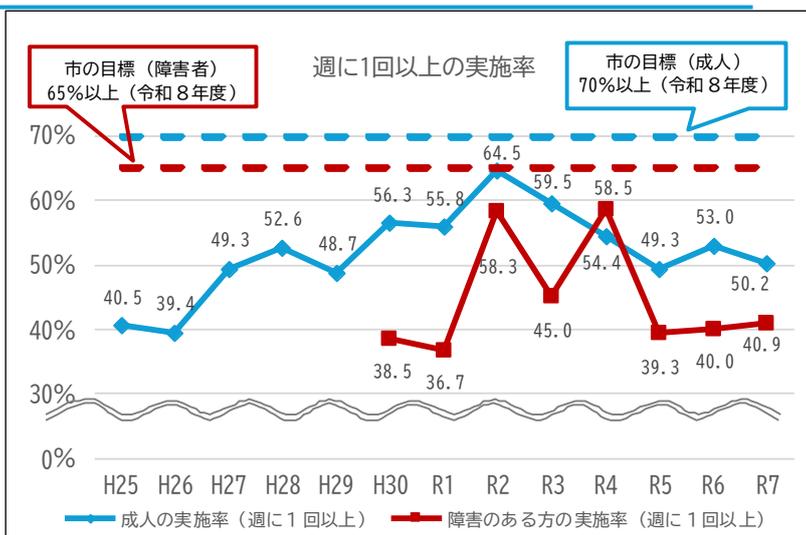
横浜市のスポーツについて

- スポーツが好きな人の割合は62.8%
スポーツへの感じ方は、「みるのが好き」(42.7%)が最も高く、次いで「することが好き」(33.4%)となった。
「する」「みる」「ささえる」のいずれかを好きと回答した割合は62.8%で、令和6年度の66.3%より3.5ポイント減少、市の目標(75%以上)には12.2ポイント及ばなかった。
- 横浜市はスポーツが盛んであると思う人の割合は54.0%
横浜市はスポーツが盛んであると思う(「思う」「やや思う」計)の割合は54.0%となり、令和6年度の58.0%から4.0ポイント減少、市の目標(70%以上)には16.0ポイント及ばなかった。



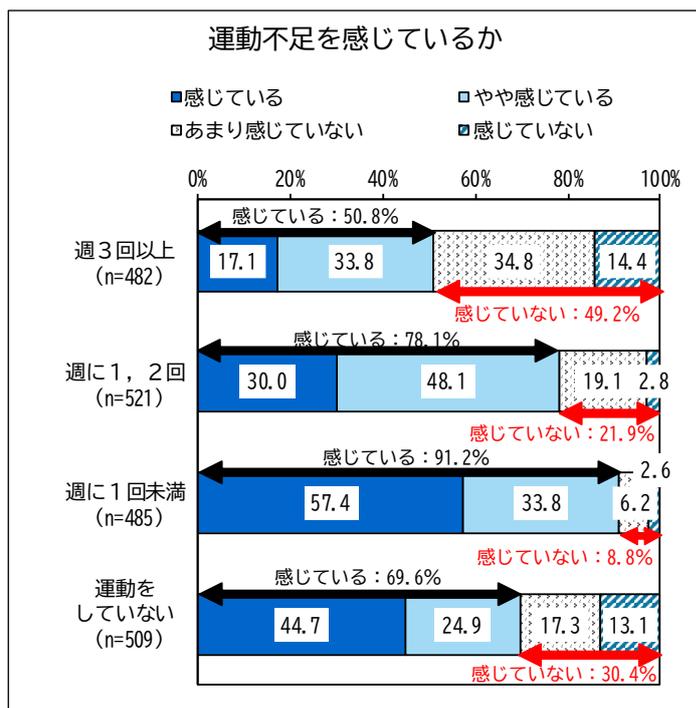
Ⅲ スポーツ実施率の変化

成人の週に1回以上のスポーツ実施率は、平成26年度の39.4%から令和2年度にかけて増加傾向にある。令和3年度から令和5年度にかけては減少したが、令和6年度には再び増加に転じ、令和7年度には減少に転じた。
障害のある方については、平成30年度から調査を始めたが、令和5年度までは数値の上下が大きく、何らかの傾向はみられなかったが、令和5年度以降4割程度で推移している。



IV 運動不足に関する意識

運動・スポーツの実施が週1回未満の人は運動不足と感じていない割合（「あまり感じていない」と「感じていない」を合わせた割合）が8.8%。一方で、運動をしていない人の運動不足と感じていない割合は30.4%。



V まとめ

令和7年度は、「障害者の週1回以上のスポーツ実施率」以外の指標において令和6年度を下回った。

特に、市内でのスポーツイベント直接観戦率は9.3ポイントと大きく減少した。観戦した種目は野球・ソフトボールが最も多く、次いでマラソン（駅伝を含む）、サッカー・フットサルと続いており、観戦した種目の上位は令和6年度と同様となっている。

「成人の週に1回以上のスポーツ実施率」は2.8ポイント減少しているが、一方で「運動不足と感じている」層が5.3ポイント減少しており、いずれも令和5年度とほぼ同様の結果となっている。「いわゆる働く世代・子育て世代の週に1回以上のスポーツ実施率」は5.8ポイントと大きく減少し、全体と比較して低い傾向が続いている。

運動習慣と運動不足に関する意識の関係をみると、週3回以上運動・スポーツを実施していても、約半数が運動不足を感じている。一方で運動をしていない人の約3割は運動不足を感じていないことから、運動習慣があっても運動不足と感じている理由や、運動をしていなくても運動不足を感じていない背景等を丁寧に分析する必要がある。また今後は、スポーツの参加機会や楽しめる環境の充実など、市民の実感を重視した施策を検討していくことが重要となる。

VI 報告書について

報告書（PDF）は、横浜市ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計のほか、性別、年代別、性・年代別、居住区別のクロス集計結果等も掲載しています。詳細は報告書を御参照ください。

※訂正等があった場合についても、ホームページに掲載します。

【令和7年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版】

令和8年3月

編集・発行 横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課

045-671-3583

横浜市中区本町6丁目50番地の10

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/shinko/ishiki.html>

